

一番大きいとは申しませんが、大きい方の宝塔であります。
この宝塔は、世界の御仏舍利塔の中でも、小さいものではありません。

これにつきましてイントロをはじめネバール、ソ連、モンゴル、スリランカ、ベトナム等
各国から集まつて、それぞれ祝辭を述べていただきましたが、井口、井上、多くの賛美歌
にあずかりまして、かたじけなく存じます。
日本、ここに東京都の御仏舍利塔を建立いたしました、めでたく落慶供養を當むじとが
できました。

昭和四十九(一九七四)年八月一日 東京都奥多摩 大寺山頂
南無妙法蓮華經

— 東京都仏舍利塔落慶法要法話 —
忍じゆじよ力が衆生を救う力になる

東京都仏舍利塔三十周年記念特集

- 21頁 * 大思得を切る=自信や得意の気持ちをじてじてに語ふするようなら、おげさな態度やじて
ばはつかいをす。 * 不敵=ものじとにおじたり、おそれたりしないじと。 * 清め紙=
- 22頁 * 幼稚=ちのみ。おはなし。
- 23頁 * 防禦=敵の攻撃から防ぎ守るじと。
- 24頁 * 七十五ヶ百畝=約一千メートルから二千メートル。 * 半ダース=六個。
- 25頁 * 火を見るより明らか=きわめて明白。確実であるじと。
- 26頁 * ナント=北大西洋条約機構。一九四九年、共産主義勢力に対抗する目的で、アメリカ・カ
ナダ・西ヨーロッパ。諸国が結成した集団安全保障機構。 * 老幼=老人と子ども。
- 27頁 * 笑止=ばかりかしくておかしくじと。 * 燃弾=建造物を焼き払う目的で使う、燃やす
薬剤を入れた投下爆弾。
- 28頁 * 案出=くふらして考え出すじと。 * ハルビン=中國東北部(旧滿州國)の省都。 * 細菌
戦=七三一部隊。日本軍が細菌戦の研究・遂行のために、一九三三(昭和六年)に創設、
本部。中國で細菌戦を行うとともに、生体実験や生体解剖を行ひ、多くの捕虜が、その
犠牲となつた。部隊長は石井四郎(一八九一~一九五九)。
- 29頁 * 有用=役に立つじと。 * 所詮=結局は。
- 30頁 * 比して=くらべて。 * 焦眉=危難がせまつていてじと。

この設計をなされた大岡博士は、この設計をなされたために行かれてました。されまして、今、型が存在していながら、この設計の原型を見出されました。次に、この首都東京の御仏舍利塔を建てます土地が、東京の水道の水源地であります。これはまたまた昔のお寺がありました所で、この土地の人々は、いざ、なにか世界のためには役に立つといつて使いたいと発願しました。それで、この土地は、日本山の土地ではありませんが、この土地の人々の了解のもとに、この宝塔を建てるといつてきました。したた。

もう一つは、この大宝塔を建立しますのに、今日、私はヘリコプターで参りましたが、皆様、歩いて登られた方がありますようが、この道は、宝塔がでまづから、皆様方の道があります。

参詣の便宜をはかりて、宝塔を建てた人々が、いらっしゃった道であります。この宝塔の建つまでは、下の村から朝晩、道のないところを通りまして、この工事をいたしました。そうして、その大工事をいたしましたのが、わざか指を折るだけの三名、四名、五名のお弟子であります。これが責任をもちまして、そして今日の宝塔落慶供養までじきつけました。この宝塔は、私が発願しましたものですが、この宝塔湧現についでは、お弟子様方に感謝をいたします。

わざか四・五人のお弟子でありますたが、本当に命を捨てて、苦労してくれました。私は発願したもの、西天イソドに渡りまして、インド、ネバールの間を、いろいろと奔波しておきましたために、この宝塔建立のために、何にも、役に立っておりません。第一、その資材の獲得に關しましても、私は責任を持たなかつたのであります。どうなかいか、この宝塔を建てるのに苦労したことであるうと考えます。

た。

ところが、そのお上人が、一夜の宿をかりたて食の坊様へ、御仏舍利贈ってくれました。そこで、草庵を建てておったビヤラタナ上人の所に、私が一夜、宿をかりました。

ガッテナといつ村があります。

御祖迦様が権御経をお詠みあそばされたと伝えられてるスリーパー。一ダの山麓に、ギアで、そのスリーパーの中心にありますのが、スリーパー。ダ(山頂)であります。

佛法の功德といつものが、じやぶんうつむかせております。

言葉の通じない私が、そのスリーパーの人々に接して、あたたかく気持ちを感じました。

その人情は、世界のじよたり、あたたかく感じました。

ます。

スリーパーでは、村々じとに必ず御仏舍利塔を建てて、そして、みんなお詣りしております。

カの国に参りましたい縁あるものです。

私が宝塔を建てるといふことを発願いたしましたのは、セイロン国、今のスリーパー

の光となりましょう。

いで苦労しましたお弟子の方々、この苦労は、世界の万国の人々の平和を求める人之心

和平の役に、何にも立ちません。

よううちに捨てられますがれども、元來、目的のない命の捨てどころでありますから、世界あるいは山に捨て、川に捨て、道のほとり、磯など、海の中、水の中に、人の命は芥の葉

遊びのためには危険をおかして、へばへばの青年の命が失われております。

みんな遊びじとあります。

作るといふて、山に登る者はありません。

今は、山の景色を見ることにて、山に登る者がありますが、山に登って、世界の平和を

見ようとすれば、必ず、いひへ登るといつてあります。

本国人々、そつし、東京に来る諸外国の人々は、およそ、日本の和平の象徴

この仕事は、落慶供養をもつて、いに終わりますけれども、今後、東京都の人々、日

貴様方にござるといふとができますれば、いのお弟子様方も満足であります。

そこに遊牧の人々、牛や山羊を追うて暮らす、いへんかの人がおりますが、その人々

夏の一月から二月、草が生えるだけであります。

雪と氷ばかりであります。
人間が住んでおりません。

私は、また、モンゴルにも参りましたが、この国では、山がけわしいといつては、へな

お弟子が必ずソ連の開教を完成します。

けれども、それは、今私は許されません。

私も、もし年が若ければ、ソ連に開教いたします。

私たちも協力できるかぎり、ソ連の開教を考えております。

お仕事は、大きい力を持ちます。

ソ連が世界和平を作らうといつたために、今日、じいにお見えになられたソ連のお方々の

で、この数少ないソ連のご出家、ソ連の仏法を頼りにしております。

それにもかかわらず、今日はソ連が国をあげて、世界和平の運動に立つといつ時にあたって

のであります。

そこには大勢の人が詣りますが、仏教徒の数といつものがソ連においては、本当に少い

一般の宗教は、ギリシャ正教、キリスト教であります。

教徒の人たちは、わずかの人たちであります。

それから、じいにソ連から、お坊様がみえておりますが、ソ連で仏教といえば、その仏

舍利塔を建てることを発願いたしました。

私も晩年になりましたので、命のあるうち、明年は、スリランカのスリーハーダに御仏

ピヤラタナ上人も、お喜びのことに思います。

今日、そのピヤラタナ上人のお弟子が、じの宝塔にお詣りしてくれました。

けれども、私、嘘を書いて、御仏舍利塔をいたいたいたのではあります。

こどがでませんでした。

も、私は、ついに、じのピヤラタナ上人御在世のうちに、日本国に御仏舍利塔を建てる

そうして、「日本国に、じの御仏舍利を建ててください」と、そう言わされましたけれど

の教化のために、チベットから、くだつてきましたラマ僧、これがモンゴルの教化を成就しまして、今日の基礎を作りました。

このモンゴルに参りました時に、よくも、このような人のない、雪の中に、食物も、着る物もなく、泊る所もない中に、重い御経の本を背負って来て、これを広めていたたいたものだと感激いたしました。

ここのお山も、たとえ、けわしいと言つても、それから道が不便だといつても、モンゴルや、それからシベリアに開教をした、その先師、先徳の人々の苦労にくらべれば、わずかのものであり、言うにたりません。

この苦労を忍ぶ力が、衆生を救う力あります。

— 40 —

それで今、シベリアでも、このモンゴルでも、御経の文字を金で書いております。

これが今、博物館や図書館に陳列されてありますが、これにまた驚きました。

日本で、御経といえば、大事なものだとはいいますけれども、墨で書くことが、精一杯あります。

今は、もう紺紙金泥で書かれた御経の写経などはありません。

こんな時には、仏様の教えも軽く考えられます。

あのモンゴルの、あのシベリアのあの中で、金を集めて、御経文を書きとどめておいた、この志が、今日、ソ連を動かしている力になります。

その書きとどめられた御経は、いつの時代をつうじましても、世界人類の救いになります。

よいことをしていただきました。

その金をたとえ蔵の中へしまつていっても、何の役にも立ちません。

その金が御経の文字となつてきて、誠に尊い昔の志が、今日に伝わつてまいりました。

— 41 —

いろいろ申し上げたいことはありますけれども、これで一応、私のご挨拶を終わらせていただきます。

今日、雨も降りましたけれども、雨で濡れるなんていうことは、たいした問題ではありません。

南無妙法蓮華經

我々が求める問題は、ひらく大きなものでなければなりません。
雨があるても、火があるても、その中を通ってまいります。

☆標高九百八十メートルの大寺山頂の東京都佛舍利塔は、高さ四十五メートル、直径五十五メートル。「大寺山」とは、文字どおり「大僧伽藍の聖山」を意味するもので、眼下には、東京都民の水源地として造られた「奥多摩湖」という人造湖が見渡せます。(藤井日達山主卒寿記念写真帖『拔苦与樂』より)
*李寿^{じゆ}かぞえ年の九十歳とその祝い。
*紺金泥^{こんきんに}紺色に染めた紙に、金泥で経文などをしるしたもの。
*大僧伽藍^{だいそうがらん} = 仏道修行する大きい場所。

— 42 —

立正安國の利生

— 東京都佛舍利塔落慶法要開式の辭^{ハセツ} —

立正安國の利生

(紀)ノ国屋社長(当時) 増井 德男(信士)

昭和四十九(一九七四)年八月一日 東京都奥多摩 大寺山頂

もとに、起工式を相當ましたことは、いまだ、記憶に新しいこと思います。
その後、日本妙法寺の御出家の方々を中心として、工事が進められました。

零^{れい}いか下五度を越し、霜、氷、白雪降り積もる中にも、そして炎熱^{えんねつ}百度を越す真夏のもと
でも、不眠不休の突貫^{つぐん}工事が進められてまいりました。

私も、この身一さえも、運び上げるのに大変な、海拔一千メートルの、この大寺

山頂に、この大宝塔様が建立、完成されましたことは、まさに御經文のじとく、大地

— 43 —

南無妙法蓮華經

昭和四十六年六月十八日、御当地において、日本妙法寺山主藤井日達聖人様大導師の